

NEWS RELEASE 新商品情報

ダイニチ業務用石油ストーブ オートターボ運転搭載の新モデルを発売(発売日:8月21日)

ダイニチ工業株式会社(本社:新潟県新潟市、代表取締役社長:吉井久夫)は、8月21日より「オートターボ運転」を搭載した業務用石油ストーブFMシリーズの新モデルを、全国の主要家電量販店にて発売いたします。

ここがポイント!

- ①オートターボ運転でさらにすばやくお部屋をあたためます。
- ②抗菌操作プレートなど、さまざまな便利機能も新しく搭載しました。

FMシリーズは「煙突が不要でススが出ない業務用石油ストーブ」として、1971年に当社が初めて発売した製品です。

新しいFMシリーズは、運転開始時に自動で火力をアップするオートターボ運転を搭載し、寒いお部屋をより早くあたためることができます。

業務用石油ストーブは事務所や工場など広い空間でのご使用が多く、よりパワフルな暖房能力が求められています。

新機能のオートターボ運転は、運転開始時に自動で最大火力を約5%^{*1}アップします。従来の機種に比べ、室温15℃に達するまでの時間を約4分短縮しました。

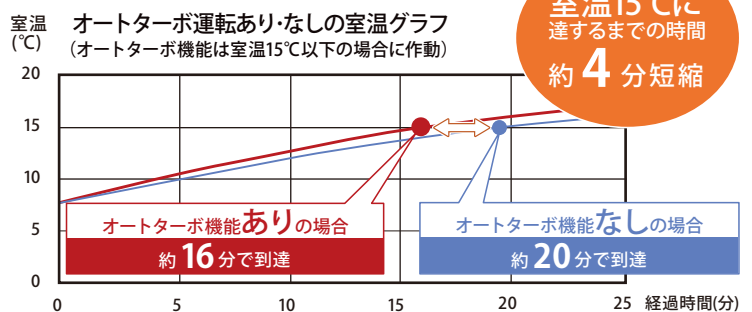
※1 FM-10F、FM-19Fのみ / 自動運転モード時のみ / 室温が15℃以下の場合に作動。使用環境や使用状況により異なる場合があります。



新色 コズミックブルー

【その他の新機能など】

- NEW** 抗菌操作プレート
- NEW** ロング電源コード(3m)
- NEW** 運転延長セレクト
- NEW** カンタンLo設定



【試験条件】FM-19Fで設定温度23℃、外気温6℃、室温8℃の木造戸建住宅47畳を想定した当社環境試験室にて測定。

【抗菌操作プレート】

いろいろな人が触れる操作プレートに抗菌※2 加工を施しました。表面の雑菌の繁殖を抑えて清潔を維持します。

※2 [試験機関]一般財団法人 ポーケン品質評価機構 [試験方法]JIS Z 2801:2010に準拠 [抗菌の方法]プレートに抗菌剤を含浸 [抗菌を行なっている対象部分の名称]操作プレート [試験結果]抑制を確認(20215010681-1)



【ロング電源コード (3m)】

従来機より電源コードを1m長くし、設置範囲がより広くとれるようになりました。

【運転延長セレクト】

運転延長のお知らせを行うまでの時間を選べるようになりました。従来は6時間で固定していましたが、運転延長セレクトでは「6時間・9時間・12時間」を設定することができます。

工場や事務所など、長時間利用される場合に便利です。

【カンタンLo設定※3】

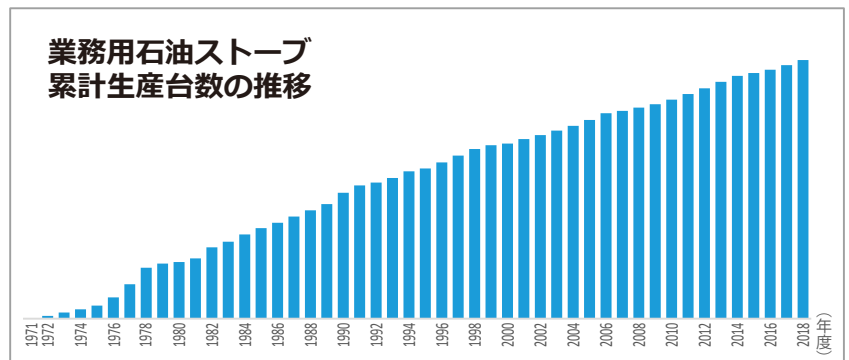
温度調整マイナスボタンの長押しで、最小火力運転に固定します。 ※3 自動運転モード時のみ。

【業務用石油ストーブ 仕様一覧】

		FM-10F 温風ファン付き	FM-19F 温風ファン付き	FM-19N 自然対流
暖房のめやす	木造(戸建)/コンクリート(集合)	10畳/13畳まで	12畳/17畳まで	15畳/20畳まで
タンク容量(L)		13.0	19.0	19.0
暖房出力(kW)	最大~最小	10.00~3.50	18.50~5.60	18.50~5.60
消費電力(W) (50/60Hz)	大火力時	265/265	448/448	413/413
	小火力時	140/140	205/205	180/180
	最大(点火時)	935/935	950/950	950/950
	待機時	1.1/1.1	1.1/1.1	1.1/1.1
本体外形寸法(置台含む)	高さ×幅×奥行き(mm)	665×456×546	724×507×581	724×507×581
希望小売価格(税抜)		94,800円	104,800円	99,800円
カラー		コズミックブルー(A)	コズミックブルー(A)	メタリックグレー(H)

【業務用石油ストーブの生産状況】

1971年の生産開始以来、毎年着実に生産、販売を続けています。



【業務用石油ストーブ 開発の歴史】

1957年

佐々木文雄が、東陽技研工業株式会社を新潟県三条市に設立。
「ダイニチ」というブランド名で、石油コンロや石油ストーブ等の
製造販売をおこなう。



⇒その後、都市ガスやプロパンガスが一般家庭に普及。操作の煩雑な石油コンロは販売不振に陥る。

1964年1月

東陽技研工業株式会社を整理。

1964年4月

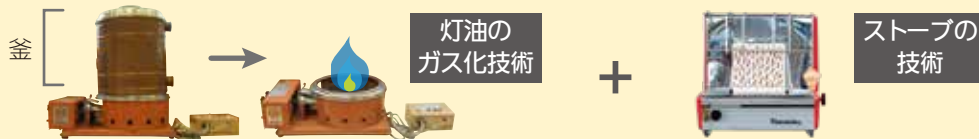
佐々木文雄が、ダイニチ工業株式会社を設立。
落差式バーナーや、石油風呂釜の製造販売をおこなう。



1967年

東洋技研工業時代に開発した灯油ガス化技術の研究を重ね、青い炎で燃える
「気化式石油風呂釜」を開発。

⇒あるとき、営業マンが「石油風呂釜の”釜”を外して暖房として使用しているお客様」を目撃。
風呂釜のバーナーに放熱器を取り付ければストーブになるのでは？と考え、開発を始めました。
前身の会社・東洋技研工業で培ったストーブに関する技術と青い炎で燃える灯油ガス化技術を合わせ、
新しいストーブの開発が進んでいきました。



1971年7月

初代ブルーヒーター[FM-2]が誕生。

⇒当時主流だった、灯油を芯に染み込ませて燃焼させる方式ではなく、
灯油を気化させて燃焼させる方式の石油ストーブを開発。
気化した灯油と空気が混合し青い炎で燃焼する様子から「ブルー
ヒーター」と名付けました。
ススが出ず、煙突が不要という点で人気となり、初年度に 3,000 台
を販売しました。



FM-2

風呂釜に放熱器
を載せた試作品

企業紹介

石油ファンヒーター最大手のメーカーで、今年で創立 55 周年。業界に先駆けて
石油気化燃焼技術の開発に取り組み、1971 年にはガスのように青い炎で燃える
気化式暖房機「ブルーヒーター」を発売いたしました。

ダイニチは製品の設計から組立、検査にいたるまで、徹底した品質管理のもと、
新潟の工場で行っています。

より質の高い安定した製品をお届けするために、ダイニチのものづくりはこれ
からも日本製です。



新潟にある本社工場